



## 「お医者さん、看護師さん 知いませんか？」

ご一報をお待ち  
しています！

大田市立病院は、大田二次医療圏の拠点病院としてその機能の強化・充実に努めているところですが、近年、医師・看護師不足が深刻化し、救急医療・周産期医療など地域医療の確保が危ぶまれる状況にあります。

“ふるさと大田”で地域医療を担っていただける医師・看護師の方々を随時募集しておりますので、情報をお寄せいただきますようお願いいたします。

(詳しくは、大田市立病院ホームページをご覧ください。)

<http://www.ohda-hp.ohda.shimane.jp/>

### 「看護の現場から…」 大田市立病院 看護部長 岸本加智代

数ヶ月前までは「こんにちは、誰か看護師さん知ませんか？働きたい人をご存知ないですか？」と、日常のあいさつ言葉でした。しかし、その反応もむなしいもので、いつしか口にしないようになり、「このままではいけない、何とかしないと・・・」と焦燥感にかられるようになってきました。

大田市立病院には、現在160名の正規看護師が在職していますが、必要数からみると20名近くの減となっています。その要因は、平成18年度の診療報酬改正による7対1入院基本料の導入であり、そのために大きな病院が多くの看護師を募集するため、当院での確保が大変厳しくなったことによります。

看護師が少なくなることは、医療現場の最前線において患者さんの傍らで24時間働く看護師が不足することになります。

今、大田市立病院は看護師不足と医師不足により最大の危機に直面しています。

先般、看護部において満足度アンケートを行いました。回答で満足度の高かったのは、“学会、研修等への参加がしやすい”で、これは職員が望む“自己研鑽を支援する体制”が整っていることを示しています。反対に、満足度の低かったのは労働条件で、“休暇が取りにくい。給料・手当”など、多くの素直な意見が返ってきました。しかし、厳しいことばかりではなく、夜勤免除や育児休業が慣習的に取れない病院もある中、大田市立病院は夜勤免除や育児休業等がきちんと取れる病院で、言い換えれば母性保護に厚く働きやすい労働環境にあると言えます。

当院の看護師は、一人ひとりが看護の仕事に誇りとやりがいをしっかり持ち、地域の皆さまに安心と安全の医療を提供することを使命に日夜勤務しています。

今後は、看護師が当院で働き続けたい・働きたいと感じるよう、処遇の改善や院内保育所の設置などの対策を実施し、より多くの看護師の確保に努めるとともに、患者さんや医療スタッフに満足していただける看護を目指して努力していきたいと考えています。



【問い合わせ】 大田市立病院 事務部医療対策課 TEL 0854-82-0330 / FAX 0854-84-7749  
メールアドレス ohda-net@ohda-hp.ohda.shimane.jp

## 発掘調査の現地説明会

3月2日、銀山本体の仙ノ山の東斜面にあたる本谷で開催された「発掘調査現地説明会（写真）」に参加しました。

現場は、本谷の中間点から南西方向に走る安原谷の入口。釜屋間歩の南西50㍍付近です。銀山最盛期に釜屋間歩を発見し稼行した山師（鉱山事業者）安原伝兵衛（のちに備中）にちなむ地名や霊所、墓所が残っているところです。

当日は残雪のなか市内外から約90人が参加。3つ掘った試掘坑（おのおの3.5㍍×2.5㍍、深さ20～100㍍）からは、比重の違いを利用して銀鉱石を選び出す水溜めの四角い穴や銀精錬したと見られる炉の跡、そして碗や皿などの陶磁器などが出土したと報告がありました。また、古文書などの資料と突き合わせた調査成果の説明がありました。

説明後の質疑応答は熱のこもったものでした。参加者から「その礎石から推定したら建物はどれくらいの大きさ？」、「そがだかな、ワシは〇〇〇と思うだかな」・・・、疑問や鋭い質問が飛び交い発掘担当者もタジタジ。

わたしはこういった光景が好きです。地域の歴史を学んだり、興味を持つ人と出会ったり、もしかすると未永い交流のきっかけになるかもしれないと想像するとうれしくなります。

さて、現在整備中の石見銀山世界遺産センター



安原谷の発掘調査は昨年から3年計画で実施。右の石階段の上には安原備中の霊所と伝えられる遺構がある（非公開）

では、石見銀山に関する展示を行います。そのひとつとして、この本谷地区の最盛期の復原模型を製作中です。担当者は、学術上の正確性を期すことはもちろんのこと、理解しやすい工夫や現地に足を運んで体感してもらうきっかけづくりに腐心しながら作業を進めています。並行して、調査中の現場公開、調査研究成果の発表会、体験学習メニューの作成などソフト事業も検討中です。

世界遺産センターは今秋10月のフルオープンを予定しています。石見銀山や地域の歴史や文化に興味を持ち人の輪が広がる場所にもなるよう努めます。

## ちゃんぽし語録④

ゴールデンウィーク中、石見銀山を訪れた観光客の数は8万8千人・・・

あっぱれな五月晴れだった5月4日、龍源寺間歩を約6,700人もの人が通り抜けました。

一番長い時で、約200㍍の列ができましたが、遊歩道では鮮やかな新緑のトンネルの下、多くの人が自然を満喫したようです。

うぐいすのさえぎり、木漏れ日、透きとおる冷たい川の水、感嘆の声がたくさん聞かれました。

～せっかくの良い天気だからと石見銀山見物に訪れた地元の夫婦の会話～

### 【用例】

夫 「やれの～！こが～にようけ並んで、間歩に入るのに30分待つだとな！」

妻 「なんだことだかいな～。だけえ私が言うたように、もほっと早よに家を出りゃあ良かっただに！」

夫 「そがなこと言うたてて、休みの日にそがにちばけて早よから動きとあないわいな」

妻 「・・・。」

夫 「そがにおぞい顔するだないが。はあ、いらくたてて順番が先になるでもなし。そこでたばこでもするかな？」

妻 「そがだねえ。せっかく来ただけえ、楽しんで帰りますかな♪」

### 【訳】

夫 「うわあ！こんなに多く並んで、間歩に入るのに30分待つらしいよ！」

妻 「なんてことでしょう。だから私が言ったように、もっと早く家を出れば良かったのに！」

夫 「そんなこと言っても、休みの日にそんなにあわてて早くから動きたくないよ」

妻 「・・・。」

夫 「そんなに怖い顔するなよ。もう、イライラしたって順番が先になるわけでもないし。そこで休憩でもするかい？」

妻 「そうですね。せっかく来たのだから、楽しんで帰りましょう♪」